

第 1 1 9 回 幹 事 会

平成 2 3 年 4 月 5 日

日 本 学 術 会 議

資料2

第119回幹事会（4月5日）出席者一覧

会長	金澤 一郎
副会長	大垣 眞一郎
副会長	広渡 清吾
副会長	唐木 英明

第一部 部長	小林 良彰
第一部 副部長	木村 茂光
第一部 幹事	酒井 啓子
第一部 幹事	白田 佳子

第二部 部長	浅島 誠
第二部 幹事	山本 正幸
第二部 幹事	鷺谷 いづみ

第三部 部長	岩澤 康裕
第三部 副部長	後藤 俊夫
第三部 幹事	池田 駿介
第三部 幹事	永宮 正治

事務局長 齋藤 敦

第 117 回幹事会議事要旨

日 時 平成 23 年 3 月 17 日（木） 13：30～16：00

場 所 日本学術会議大会議室

出席者 （会 長）金澤 一郎

（副会長）鈴木興太郎、唐木 英明

（第一部）広渡 清吾、小林 良彰、木村 茂光、山本 眞鳥

（第二部）浅島 誠、山本 正幸、鷲谷いづみ

（第三部）岩澤 康裕、後藤 俊夫、池田 駿介

（事務局長）齋藤 敦

（課長等）清水 誠、上平 春樹、廣田 英樹、石原 祐志、渡部 良一

審議事項等

1 前回議事要旨の確認が行われた。

2 以下の公開審議が行われた。

(1) 国際委員会運営要綱の一部改正（廃止 2 分科会）及び委員（1 件）、分野別委員会運営要綱の一部改正（新設 1 分科会、廃止 2 分科会）及び委員（4 件）、大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会設置要綱の一部改正（委員会・3 分科会の設置期間の延長）が決定された。

(2) 報告「大学院における高度人材育成に向けて－化学系大学院を中心として－」について、化学委員会高度人材育成と国際化に関する検討分科会新海征治委員長、福住俊一副委員長から説明があり、審議の結果、所要の修文を条件に承認された。

(3) 日本学術会議分野別委員会及び分科会等についての一部改正が決定された。

(4) 補欠の会員の選考手続についての一部改正が決定された。

(5) 定年により退任する佐久間健人会員（平成 23 年 9 月定年）、柏典夫会員（平成 23 年 9 月定年）の補欠の会員候補者を推薦する部について、推薦する部（第三部）を決定した。

(6) 日本学術会議協力学術研究団体の指定（5 件）が承認された。

(7) 平成 23 年度代表派遣実施計画及び代表派遣（4～6 月分）が承認された。

(8) 国際科学会議第 104 回理事会（ICSU 104th Meeting of Executive Board）出席に係る会員の派遣が承認された。

(9) 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2011 の開催が承認された。

(10) 平成 25 年度開催国際会議の共同主催候補が承認された。

(11) 1 件のシンポジウム等の主催、1 件の国内会議の後援が承認された。

3 以下の非公開審議が行われた。

(1) 分野別委員会における分科会委員（特任連携会員）（1 件）、大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会における委員会等の委員（特任連携会員）の任期の延長（4 件）、科学・技術を担う将来世代の育成方策検討委員会の委員（特任連携会員）（1 件）が決定された。

- (2) 総会で承認を得るための補欠の会員の候補者を決定するとともに総会までに本人から所属部の意向を確認することが承認された。
- (3) 京都大学数理解析研究所運営委員会及び専門委員会委員候補者を推薦することが承認された。
- (4) ICSU World Data System-International Program Office に対する支援について、岩澤部長、土居範久連携会員から説明があり、了承された。
- (5) その他事項として、次のことについて報告等がなされた。
- ・総会で報告する外部評価書及び委員会・分科会審議経過報告について報告があった。
 - ・10月の総会の日程について話し合いが行われ、10月3日(月)～5日(水)に開催する方向となった。
 - ・東北関東大震災関係として、会員・連携会員の安否確認状況、東北関東大震災関連見舞状一覧、(財)日本学術協力財団を通じた義援金の寄附、3月18日に緊急集会「今、われわれにできることは何か？」が開催されることについて報告がなされるとともに、幹事会声明案「東北・関東大震災とその後の原子力発電所事故について」が議論された。
 - ・事務局長から委員手当の執行状況について報告があった。
 - ・石原参事官から Japanese Journal of Mathematics の電子ジャーナル化について、独立行政法人科学技術振興機構に回答を行ったとの報告があった。

第117回幹事会（平成23年3月17日（木））13:30～

議事次第

（公開審議）

I 前回議事要旨確認

II 諸報告

III 審議事項

- | | |
|-----------|--|
| 1 委員会関係 | 提案1 国際委員会運営要綱の一部改正及び委員の決定 |
| | 提案2 分野別委員会運営要綱の一部改正及び委員の決定 |
| | 提案3 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会設置要綱の一部改正 |
| 2 提言等 | 提案4 報告「大学院における高度人材育成に向けて―化学系大学院を中心として―」 |
| 3 規則等 | 提案5 日本学術会議分野別委員会及び分科会等についての一部改正 |
| | 提案6 補欠の会員の選考手続についての一部改正 |
| 4 選考関係 | 提案7 補欠の会員の候補者を推薦する部の決定 |
| 5 団体等の指定 | 提案8 日本学術会議協力学術研究団体の指定 |
| 6 国際会議関係 | 提案9 平成23年度代表派遣実施計画 |
| | 提案10 平成23年度代表派遣（平成23年4月～6月分） |
| | 提案11 国際科学会議第104回理事会（ICSU 104th Meeting of Executive Board）出席に係る会員の派遣 |
| | 提案12 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2011の開催 |
| | 提案13 平成25年度開催国際会議の共同主催候補 |
| 7 シンポジウム等 | 提案14 （シンポジウム等1件） |
| 8 後援 | 提案15 国内会議 |
| 9 その他 | |

IV その他

(非公開審議)

V 非公開審議事項

1 委員会関係

提案16 分野別委員会における分科会委員（特任連携会員）の決定

提案17 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会における委員会等の委員（特任連携会員）の任期の延長

提案18 科学・技術を担う将来世代の育成方策検討委員会の委員（特任連携会員）の決定

2 選考関係

提案19 補欠の会員候補者の選考

3 外部委員候補者の推薦

提案20 外部委員候補者の推薦

4 その他

提案21 補欠の会員の所属部の決定

提案22 ICSU World Data System-International Program Officeに関する支援

総会報告案件等の幹事会報告

10月の総会日程について

東北関東大震災関係について

事務局より報告

第 1 1 8 回幹事会議事要旨

日 時 平成 2 3 年 3 月 2 3 日 (水)

(会則第 26 条による幹事会における議決方法の特例により、メール審議を行った)

審議内容

(審議事項)

委員会関係

提案 1 幹事会附置委員会（東日本大震災対策委員会）の設置及び委員の決定

○東北地方太平洋沖地震に伴う震災に対する日本学術会議の取組に関する事項を審議するため、幹事会附置委員会（東日本大震災対策委員会）を設置するとともに委員を決定するもの

(非公開審議事項)

委員会関係

提案 2 東日本大震災対策委員会の委員（特任連携会員）の決定

○東日本大震災対策委員会の委員（特任連携会員）を決定するもの

提案 1～2 について原案のとおり承認された。

諸 報 告

第 1	前回幹事会以降の経過報告	ページ
1	会長等出席行事	1
2	幹事会声明	1
3	審議付託等	2
4	賞等の推薦	2
5	委員会委員の辞任	2
6	日本学術会議協力学術研究団体の指定取消	2
第 2	各部・各委員会等報告	
1	部会の開催とその議題	3
2	幹事会附置委員会の開催とその議題	3
3	機能別委員会の開催とその議題	3
4	分野別委員会の開催とその議題	3
5	課題別委員会の開催とその議題	6
6	総合科学技術会議報告	6

第 1. 前回幹事会以降の経過報告

1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
3 月 17 日 (木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長、齋藤局長
3 月 18 日 (金)	日本学術会議緊急集会「今、われわれにできることは何か？」	金澤会長、鈴木副会長、唐木副会長、
3 月 24 日 (木) ～25 日 (金)	G8 学術会議 (パリ・フランス))	唐木副会長
3 月 27 日 (日) ～29 日 (火)	第 11 回インターアカデミーカウンスル(IAC) 理事会 (ワシントン DC・米国)	唐木副会長
3 月 24 日 (木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長、齋藤局長
3 月 31 日 (木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長、齋藤局長

2 幹事会声明

日本学術会議幹事会声明
東北・関東大震災とその後の原子力発電所事故について
2011 年 3 月 18 日

平成 23 年 3 月 11 日、三陸沖を震源地にマグニチュード 9.0 の巨大地震が発生し、東北地方太平洋沿岸を中心に広い地域を襲った巨大な津波を誘発して、多くの方々の貴重な生命を奪いました。この未曾有の地震と津波の犠牲者の方々には、心からの哀悼の意を捧げます。食料、飲料水、寝具、医薬品など、緊急な救援物資さえ敏速には届かず、寒さと飢えと病いに苦しみ続ける被災者の皆様には、一刻も早く暖かい救助の手が届くこと、膨大な数にのぼる行方不明の方々も早急に発見され、家族と再会できることを、強く祈念せずにはいられません。不屈の闘志を持って被災者の救出活動に懸命に努力されている多くの方々には、心からの感謝の意を表します。また、海外から寄せられた暖かい連帯と激励の言葉並びに敏速な救援活動に対しても、厚くお礼を申し上げます。これら無償のご厚意にお応えするためにも、日本学術会議はこの惨状の克服に向けたあらゆる努力に協力する覚悟です。

そのためにも、今回の事態に照らして、災害の衝撃に対する日本の社会・経済システムの備えを厳しく点検しなすこと、災害を予測・予防するために、学術がどこまで有効に貢献できるかを冷静に考えなおすことは、必要不可欠です。この再点検、再検討の作業は本格的な取り組みを要する中・長期的な課題ではありますが、現在も継続中の危機に有効に対処するために早急に必要な緊急作業も、決して少なくはありません。

第 1 に、我々が現在直面している最大の問題は、東京電力福島第一原子力発電所の原子炉から放射性物質の漏出が起こっている非常事態です。その原因の究明と再発防

止への議論もさりながら、放射能漏出による国民生活や健康への被害を最小限に留めるための対策は、喫緊の重要性を持っています。原子力関係の科学者が、所属する省庁や研究グループの違いを超えて学術の《知》を結集して、少ない選択肢のなかで最善の選択がなされることを、心から願っています。

第2に、未曾有の災害に直面して国民が覚える不安感は、直面するリスクに関する正確な情報が、必ずしも的確に伝達されていないことに起因することが少なくありません。たとえ深刻な情報であっても一むしろ深刻な情報であればあるほど一正確に国民に伝えられるべきものです。そうであればこそ、事態の深刻さを冷静に踏まえた適切な行動を求める呼びかけは、人々を動かす力となるものだと思います。放射性物質の漏出問題はその適例であります。

第3に、今回の災害に対して、かつての阪神大震災の教訓を生かして社会・経済システムが設計されて、今回の自然災害に直面して有効に機能したかといえ、総量的には不足していない緊急な救援物資さえ被災者に敏速に届いていない事実が物語っているように、慄然とした思いを禁じ得ない実状にあります。津波による輸送網の破壊によって説明できる部分は限られていて、少なからぬ問題点はシステムの運用面に見いだされるというべきです。

これらの緊急の作業に関して、人文・社会科学を含む学術の全側面を代表する日本学術会議は、必要な助言を行う意思と能力を持っています。

日本の学術の担い手を結集する日本学術会議は、今回の災害が顕示した日本の社会・経済システムの脆弱性を謙虚に受け止め、その改善の方策を真摯に模索して、次代に安心して引き継ぐことのできる新しいわが国の社会を構築するために科学と技術を活用する方法を、社会に向けて説明する責任を自覚して行動します。

2 審議付託等

件 名	申 請 者	審議付託先
第37回全国語学教育学会年次国際大会の後援	特定非営利活動法人全国語学教育学会代表者	第一部

3 賞等の推薦

件 名	照 会 先	備 考
第27回国際生物学賞	各部	照会中

4 委員会委員の辞任

○選考委員会人文・社会科学選考分科会 山本 眞鳥（平成23年3月31日付）

5 日本学術会議協力学術研究団体の指定取消

和歌山地理学会（平成23年3月5日解散のため）

第2. 各部・各委員会報告

1 部会の開催とその議題

- (1) 第三部拡大役員会（第33回）（3月22日）
 - ①緊急メッセージについて ②今後の対応について ③その他
- (2) 第三部拡大役員会（第34回）（3月25日）
 - ①緊急メッセージについて ②今後の対応について ③その他

2 幹事会附置委員会の開催とその議題

- (1) 東日本大震災対策委員会（第1回）（3月24日）
 - ①出席者紹介 ②委員長、副委員長、幹事の選出 ③今後の進め方について ④その他

3 機能別委員会の開催とその議題

- (1) 選考委員会人文・社会科学選考分科会（第1回）（3月20日）
 - ①役員の選任について
 - ②次回の分科会の開催日程について
 - ③分科会委員の交代について
- (2) 選考委員会生命科学選考分科会（第1回）（3月24日）
 - ①役員の選任について
 - ②分科会の運営について
 - ③選考のスケジュールについて
 - ④選考の基本方針について
 - ⑤その他

4 分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

- (1) 心理学・教育学委員会・史学委員会・地域研究委員会合同高校地理歴史科教育に関する分科会（第11回）（3月21日）
 - ①4月23日公開シンポジウムの進行について
 - ②高校地歴科教育改革の提言について ③その他

(2) 心理学・教育学委員会・史学委員会・地域研究委員会合同高校地理歴史科教育に関する分科会（第12回）（3月30日）

- ①高校地理歴史教育改革案をめぐる文部科学省国立教育政策研究所関係者との意見交換
- ②4月23日公開シンポジウムの準備について
- ③その他

(3) 政治学委員会（第4回）（4月4日）

- ①21期の総括 ②22期への展望 ③その他

(4) 心理学・教育学委員会（第6回）（4月4日）

- ①今期23年度の心理学・教育学委員会の活動
- ②心理学・教育学委員会関連分科会の活動報告と今期の活動予定
- ③大型研究への申請状況について ④その他

(5) 哲学委員会（第8回）（4月4日）

- ①平成23年度シンポジウムについて ②第21期分科会報告書について
- ③「知のタペストリー（岩波ジュニア新書）」への参加について
- ④世界哲学会[2013、アテネ]について ⑤その他

第二部担当

(1) 健康・生活科学委員会高齢者の健康分科会（第12回）（3月21日）

- ①シンポジウムの内容と進め方について
- ②提言の骨子と進め方について ③その他

(2) 心理学・教育学委員会、臨床医学委員会、健康・生活科学委員会、環境学委員会、土木工学・建築学委員会合同子どもの成育環境分科会成育空間に関する政策提案検討小委員会（第15回）（3月22日）

- ①省庁インタビュー結果について ②提言の原稿について ③その他

(3) 心理学・教育学委員会、臨床医学委員会、健康・生活科学委員会、環境学委員会、土木工学・建築学委員会合同子どもの成育環境分科会（第16回）（3月29日）

- ①3月29日日本学術会議主催公開講演会について
- ②提言（案）の取りまとめについて

(4) 農学委員会・食料科学委員会合同CIGR分科会（第10回）（3月29日）

- ①CIGR国際シンポジウム2011のプログラム編成について
- ②CIGR国際シンポジウム2011の今後の推進について

③その他

(5) **農学委員会** (第9回) (4月4日)

- ①大型研究計画について ②夏季委員会・公開シンポジウムについて
- ③その他

(6) **基礎生物学委員会** (第6回) (4月4日)

- ①大型研究計画について ②人事について ③その他

(7) **臨床医学委員会** (第6回) (4月4日)

- ①各分科会等の活動について ②その他

(8) **基礎医学委員会** (第3回) (4月4日)

- ①ポストドク等のアンケート調査について
- ②学術の大型施設計画・大規模研究計画 (いわゆるマスタープラン) についての生物系のシンポジウム開催について (基礎医学委員会、基礎生物学委員会合同)

第三部担当

(1) **土木工学・建築学委員会河川流出モデル・基本高水評価検討等分科会**
(第3回) (3月28日)

- ①流出解析レビューのワーキンググループ途中経過報告
- ②専門家ヒアリングについて
- ③基本高水算定手法 (主として新手法) に関する質疑 ④その他

(2) **土木工学・建築学委員会河川流出モデル・基本高水評価検討等分科会**
(第4回) (3月29日)

- ①専門家ヒアリング ②その他

(3) **総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心リスク検討分科会** (第7回) (3月30日)

- ①東北関東大震災について ②その他

(4) **機械工学委員会機械工学企画分科会** (第9回)・**同機械工学ディシプリン分科会** (第4回) 合同会議 (3月31日)

- ①アンケートの結果について
- ②機械工学コミュニティの今後の課題と次期への引き継ぎ ③その他

(5) **土木工学・建築学委員会河川流出モデル・基本高水評価検討等分科会**
(第5回) (4月1日)

- ①論点の整理 ②報告書取りまとめに向けて ③その他

(6) 総合工学委員会総合工学企画分科会 (第7回) (4月4日)

- ①大型研究計画について ②電気電子情報関連学会等懇談会について
③各分科会からの現状報告 (提言、報告、記録の進行状況など含む)
④次期総合工学委員会に向けての懇談 ⑤その他

5 課題別委員会の開催とその議題

(1) 人間の安全保障とジェンダー委員会 (第11回) (3月25日)

- ①報告事項
1) 委員会設置期限の延長願いについて 2) その他
②審議事項
1) 東北関東大地震に関する本委員会の緊急対応について
2) 今後の活動について 3) その他

(2) 医師の専門職自律検討委員会 (第5回) (3月28日)

- ①意思の表出の取りまとめ等について ②その他

6 総合科学技術会議報告

1. 本会議

なし

2. 専門調査会

3. 総合科学技術会議有識者議員会合

3月17日 会長出席
3月24日 会長出席
3月31日 会長出席

審 議 事 項

		頁
Ⅲ 審議事項		
1 委員会関係	提案1 選考委員会における分科会委員の決定	1
	提案2 分野別委員会運営要綱の一部改正	2
	提案3 人間の安全保障とジェンダー委員会設置要綱の一部改正	7
	提案4 東アジア共同体の学術基盤形成委員会設置要綱の一部改正	9
2 提言等	提案5 提言「持続可能な長寿社会に資する学術コミュニティの構築」	11
	提案6 提言「労働・雇用と安全衛生に関わるシステムの再構築を一働く人の健康で安寧な生活を確保するために」	12
	提案7 報告「ものづくり支援のための計算力学シミュレーションの品質保証に向けて」	13
3 規則等	提案8 日本学術会議の運営に関する内規の一部改正	14
4 国際会議関係	提案9 スリランカ学術機関等との会合に係る会員の派遣	16
5 シンポジウム等	提案10 公開シンポジウム「食育の現状と大学附属農場等の果たすべき役割 パート3 「食と「農」が協働する教育への期待」	17
	提案11 公開シンポジウム「生命科学系研究の将来のマスタープラン」	19
	提案12 公開シンポジウム「シミュレーションと社会—文理を結ぶ新しい方法論」	23
	提案13 公開シンポジウム「分類学は旧くて新しい—国立自然史博物館の設立に向けて—」	25
	提案14 公開シンポジウム「歯周病の予防が全身の健康を守る！～医科と歯科の立場から」	27
	提案15 日本学術会議中部地区会議学術講演会	29
	提案16 日本学術会議中国・四国地区会議主催講演会	31
	提案17 第30回混相流シンポジウム	33
	提案18 シンポジウム「東アジアにおける現代の地表プロセスと長周期環境変動 (Present Earth Surface Processes and Long-term Environmental Changes in East Asia) 」	35
6 後援	提案19 国際会議	37

1	
幹事会	1 1 9

提 案

選考委員会における分科会委員の決定について

- 1 提 案 者 第一部部長
- 2 議 案 選考委員会における分科会委員の決定（追加1件）
- 3 提案理由 第一部役員の交代に伴い、選考委員会における分科会委員を
下記のとおり決定するため。

記

○ 委員の決定（追加1件）

（ 選考委員会 人文・社会科学選考分科会）

氏名	日本学術会議での役職
酒井 啓子	第一部幹事

2	
幹事会	1 1 9

提 案

分野別委員会運営要綱の一部改正について

- 1 提 案 者 社会学委員会委員長、農学委員会委員長、食料科学委員会委員長、総合工学委員会委員長
- 2 議 案 分野別委員会運営要綱の一部改正（新規設置 1 分科会、設置期間延長 2 分科会）
- 3 提案理由 下記の分野別委員会における分科会の設置及び設置期間の延長に伴い、運営要綱を一部改正する必要があるため。

分野別委員会運営要綱(平成17年10月4日日本学術会議第1回幹事会決定)の一部を次のように改正する。次表により、改正前欄の掲げる規定をこれに対応する改正後の欄に掲げる規定の傍線を付した部分のように改める。

改 正 後					改 正 前				
別表第1					別表第1				
分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	備考	分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	備考
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
社会学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	社会学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	社会学委員会福祉職・介護職育成分科会	・大学等の養成機関の役割、職場環境のあり方、社会のあり方について ・キャリアパスの方向付け、介護士等の海外からの受け入れのあり方	2名以内の会員及び10名以内の連携会員	設置期間： 平成20年10月23日～平成23年9月30日		社会学委員会福祉職・介護職育成分科会	・大学等の養成機関の役割、職場環境のあり方、社会のあり方について ・キャリアパスの方向付け、介護士等の海外からの受け入れのあり方	2名以内の会員及び10名以内の連携会員	設置期間： 平成20年10月23日～平成23年4月30日
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
農学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	農学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	農学委員会・食料科学委員会合同遺伝子組換え作物分科会	遺伝子組換え食品に関すること	20名以内の会員又は連携会員	設置期間： 平成21年4月6日～平成23年9月30日		農学委員会・食料科学委員会合同遺伝子組換え作物分科会	遺伝子組換え食品に関すること	20名以内の会員又は連携会員	設置期間： 平成21年4月6日～平成23年4月30日
食料科学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	食料科学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	農学委員会・食料科学委員会合同遺伝子組換え作物分科会	農学委員会に記載	農学委員会に記載	設置期間： 平成21年4月6日～平成23年9月30日		農学委員会・食料科学委員会合同遺伝子組換え作物分科会	農学委員会に記載	農学委員会に記載	設置期間： 平成21年4月6日～平成23年4月30日
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
総合工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	総合工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	総合工学委員会原子力事故対応分科会	・緊急対応(放射性物質による被爆と汚染に関して)に関する提言の取りまとめ ・中長期対応に関する提言の取りまとめ	20名以内の会員又は連携会員			(新規設置)			
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)

附則
この決定は、決定の日から施行する。

(様式)

総合工学委員会分科会の設置について

分科会等名：原子力事故対応分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	総合工学委員会
2	委員の構成	20名以内の会員または連携会員
3	設置目的	2011年3月11日に発生した未曾有の巨大地震と大津波により、福島第1原子力発電所は燃料損傷に至る重大な事故を引き起こした可能性が高い。この事故により施設周辺に多量の放射性物質が放出された。周辺住民には避難指示が出され、広範囲にわたって放出した放射能は農産物や水道水の汚染を引き起こした。 本分科会の目的は、国民及び国際社会に大きな不安を与えているこの原子力事故への対応について日本学術会議としての今後の活動計画と提言を取りまとめることである。
4	審議事項	・緊急に対応を擁する事項に関する提言の取りまとめ：放出された放射性物質による被曝と汚染の計測およびその分かりやすい周知、有識者による助言体制の構築など ・中長期的対応に関する提言の取りまとめ：ハードとソフト両面からの苛酷事故対策、将来のエネルギー選択に関する検討体制の整備など ・日本学術会議としての今後の活動計画の取りまとめ
5	設置期間	時限設置 年 月 日～ 年 月 日 常設
6	備考	

(参考 設置期間を延長する分科会の設置提案書)

社会学委員会分科会の設置について

分科会等名：社会学委員会 福祉職・介護職育成分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	社会学委員会
2	委員の構成	2名以内の会員及び10名以内の連携会員
3	設置目的	高齢化社会を迎え、相談職である福祉職や直接介護に従事する介護職の育成が緊急の課題となっている。そのため、いかに育成していくかを、広く高校生等の時期から、職場での管理職に至るまでの長期に亘って捉え、検討することを目的とする。
4	審議事項	大学等の養成機関の役割に加えて、職場環境のあり方、さらには社会のあり方について、広く検討することとする。ここでは、キャリアパスの方向付け、介護士等の海外からの受け入れのあり方についても検討する。
5	設置期間	期限設置 平成20年10月23日～平成23年4月30日
	設置期間延長	平成23年9月30日まで延長
	延長理由	報告書等を作成するため
6	備考	

(参考 設置期間を延長する分科会の設置提案書)

農学委員会・食料科学委員会分科会の設置について

分科会等名： 遺伝子組換え作物分科会

1	所 属 委 員 会 名 (複数の場合は、 主体となる委員 会に○印を付け る。)	○農学委員会 食料科学委員会
2	委 員 の 構 成	20名以内の会員又は連携会員
3	設 置 目 的	世界の、また日本の食料を確保することは、人類生存にと って不可欠です。その中で、今の世界の農業生産の状況を考 えたとき、遺伝子組換え作物、あるいは、遺伝子組換え食品 の問題は避けて通れない問題です。 しかし、一方では、組換え食品については「いわゆる安全 性」という観点で、社会的な認知がまだ十分ではないという 現実的な状況があります。 遺伝子組換え作物、あるいは、遺伝子組換え食品について、 今、まだ何が問題で、今後、科学者の立場で何をどうしてい けばいいのかを議論することを目的とします。
4	審 議 事 項	遺伝子組換え食品に関すること
5	設 置 期 間	平成21年4月6日～23年4月30日
	設置期間延長	平成23年9月30日まで延長
	延 長 理 由	報告書等を作成するため。
6	備 考	

3	
幹事会	1 1 9

提 案

人間の安全保障とジェンダー委員会設置要綱の一部改正について

- 1 提案者 人間の安全保障とジェンダー委員会委員長
- 2 議 案 人間の安全保障とジェンダー委員会設置要綱の一部改正
- 3 提案理由 「人間の安全保障とジェンダー委員会」の設置期間を平成 23 年 9 月 30 日まで延長することに伴い、設置要綱を一部改正するため。

「人間の安全保障とジェンダー委員会」設置要綱（平成 22 年 4 月 6 日 日本学術会議第 94 回幹事会決定）の一部を次のように改正する。次表により、改正前欄に掲げる規定の傍線を付した部分をこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線を付した部分のように改める。

改 正 後	改 正 前
(略) (設置期限) 第 4 委員会は、 <u>平成 23 年 9 月 30 日</u> まで置かれるものとする。 (略)	(略) (設置期限) 第 4 委員会は、 <u>平成 23 年 4 月 30 日</u> まで置かれるものとする。 (略)

附 則

この決定は、決定の日から施行する。

4	
幹事会	1 1 9

提 案

東アジア共同体の学術基盤形成委員会設置要綱の一部改正について

- 1 提案者 東アジア共同体の学術基盤形成委員会委員長
- 2 議 案 東アジア共同体の学術基盤形成委員会の設置要綱の一部改正（設置期間の延長）
- 3 提案理由

これまでの委員会において、各委員の交流実績と学術基盤形成のための課題について議論を深め、提言に盛り込むべき論点の共有化を行った。この論点をもとに、現在は提言の最終的とりまとめの段階にあるため、東アジア共同体の学術基盤形成委員会の設置期間を平成23年9月30日まで延長することに伴い、設置要綱を一部改正するため。

「東アジア共同体の学術基盤形成委員会」設置要綱（平成 22 年 3 月 25 日 日本学術会議第 92 回幹事会決定）の一部を次のように改正する。次表により、改正前欄に掲げる規定の傍線を付した部分をこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線を付した部分のように改める。

改 正 後	改 正 前
(略) (設置期限) 第 4 委員会は、 <u>平成 23 年 9 月 30 日</u> まで置かれるものとする。 (略)	(略) (設置期限) 第 4 委員会は、 <u>平成 22 年 4 月 30 日</u> まで置かれるものとする。 (略)

附 則

この決定は、決定の日から施行する。

5	
幹事会	1 1 9

提 案

提言「持続可能な長寿社会に資する学術コミュニティの構築」

- 1 提 案 者 持続可能な長寿社会に資する学術コミュニティの構築委員会委員長
- 2 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 提言「持続可能な長寿社会に資する学術コミュニティの構築」を別添のとおり取りまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと。

6	
幹事会	1 1 9

提 案

提言「労働・雇用と安全衛生に関わるシステムの再構築を一働く人の健康で安寧な生活を確保するために－」

- 1 提 案 者 労働雇用環境と働く人の生活・健康・安全委員会委員長
- 2 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 提言「労働・雇用と安全衛生に関わるシステムの再構築を一働く人の健康で安寧な生活を確保するために－」を別添のとおり取りまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと。

7	
幹事会	1 1 9

提 案

報告「ものづくり支援のための計算力学シミュレーションの品質保証に向けて」

- 1 提 案 者 総合工学委員会委員長、機械工学委員会委員長
- 2 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと
工学設計分科会において、これまで審議してきた結果を別添のとおり
取りまとめたので、報告としてこれを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第四号の「報告」として取り扱うこと

8	
幹事会	1 1 9

提 案

「日本学術会議の運営に関する内規」の一部改正について

- 1 提案者 会 長

- 2 議 案 「日本学術会議の運営に関する内規」を、別紙案のとおり一部改正すること。

- 3 提案理由 会長、副会長及び各部の役員のすべてが委員となることとされている委員会の発表する提言又は報告については、既に実質的に幹事会構成員のすべての了解が得られていることにかんがみ、意思決定の迅速性を確保する観点から、幹事会手続を省略することができることとする必要があるため

(案)

日本学術会議の運営に関する内規（平成１７年１０月４日日本学術会議第１回幹事会決定）の一部を次のように改正する。次表により、改正前欄に掲げる規定の傍線を付した部分をこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線を付した部分のように改める。

改 正 後	改 正 前
（提言及び報告の手続） 第３条 部、委員会又は分科会が提言又は報告を発表する場合、幹事会の承認を得なければならない。<u>ただし、会長、副会長及び各部の役員のすべてが委員となることとされている委員会については、この限りでない。</u> ２ （略）	（提言及び報告の手続） 第３条 部、委員会又は分科会が提言又は報告を発表する場合、幹事会の承認を得なければならない。 ２ （略）

附 則

この決定は、決定の日から施行する。

9	
幹事会	1 1 9

提 案

スリランカ学術機関等との会合に係る会員の派遣

- 1 提 案 者 国際委員会委員長
- 2 議 案 標記について、下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 スリランカ学術機関等との会合のため、以下のとおり会員を派遣することとしたい。
- 4 派遣者 金澤 一郎（会長）
白田 佳子（第一部会員、国際委員会委員）
- 5 用務期間 平成23年4月25日（月）～26日（火）
- 6 会合場所 スリランカ国家科学アカデミーNational Academy of Sciences of Sri Lanka 等（コロンボ・スリランカ）
- 7 派遣趣旨 スリランカ学術機関等との会合に係る会員の派遣に関しては、日本学術会議の学術外交の観点から、国際学術交流事業の実施に関する内規第43条第3項（発展途上国における学術の研究体制の実態を把握し、当該国における学術の発展を図る上で必要な意見を交換し、情報を提供する活動）等を勘案して、金澤一郎会長及び白田佳子会員を日本学術会議の代表者として派遣することとしたい。

1 0	
幹事会	1 1 9

提 案

公開シンポジウム「食育の現状と大学附属農場等の果たすべき役割 パート3 「食と「農」が協働する教育への期待」の開催について

1. 提案者 農学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催：日本学術会議農学委員会農学分科会、全国大学附属農場協議会
2. 後 援：文部科学省（予定）、農林水産省（予定）、(株)農山漁村文化協会（予定）
3. 日 時：平成23年5月13日（金）14:00～17:00
4. 場 所：日本学術会議講堂
5. 分科会：分科会開催予定
6. 開催趣旨：

全国大学附属農場協議会に加盟する53大学の附属農場、フィールド科学センター等においては、長年の教育・研究活動を通して蓄積された経験をもとに、作物の生産や家畜の飼育などの体験を通じた「農」に関わる教育活動を展開している。また、日本学術会議農学委員会農学分科会に集う研究者は、フィールドを研究現場として活動している者も多く、子どもたちの体験学習等の「食育」にも積極的に関わっている。

平成19年のパート1、平成21年のパート2に引き続き、本シンポジウム（パート3）では、文部科学省による教育関連施設の共同利用事業がもたらす「食」

と「農」が協働する教育への期待、農林水産省の食育推進事業の現状と今後、食育推進事業の協力団体からみた現状と期待、現在進められている大学附属農場における「食」と「農」の教育の取り組みについて紹介するとともに、国民と連携した今後の推進方向と農学系大学および大学附属農場等の食育における果たすべき役割を明らかにする。

7. 次 第：

開会の挨拶 大杉立（日本学術会議連携会員、農学分科会委員長、東京大学大学院・教授）

講演

- 1) 大学附属農場における「食」と「農」が協働する教育への期待
小暮聡子（文部科学省・専門教育課・係長）
- 2) 農林水産省の食育推進事業の紹介
井内雅明（農林水産省・消費者情報官）
- 3) 大学附属農場の食育の現状
居城幸夫（宇都宮大学・教授・全国大学附属農場協議会副会長：食育担当）
- 4) 酪農教育拠点・広島大学・西条ステーション（農場）における命の尊厳を涵養する食農フィールド教育
谷口耕三（広島大学・教授）
- 5) 女子栄養大学の「食」の教育が「農」に出会った時
仙波圭子（女子栄養大学・教授）
- 6) 人間総合科学大学の「食」の教育が「農」に出会った時
桑田有（人間総合科学大学・教授）
- 7) 東京農業大学における「食」と「農」の協働教育
夏秋啓子（日本学術会議連携会員、農学分科会委員、東京農業大学教授）
- 8) 食育事業の事務局からみた食育の現状と大学、附属農場に期待する役割
鈴木敏夫（(株) 農山漁村文化協会・編集局・次長）

パネルディスカッション

司会：長尾慶和（宇都宮大学・教授）

閉会の挨拶 中司敬（九州大学大学院・教授、全国大学附属農場協議会・会長）

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

1 1	
幹事会	1 1 9

提 案

公開シンポジウム「生命科学系研究の将来のマスタープラン」の開催について

1. 提案者 基礎生物学委員会委員長、基礎医学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催：日本学術会議基礎生物学委員会、基礎医学委員会
2. 後 援：生物科学学会連合（予定）
3. 日 時：平成 23 年 5 月 19 日（木）9:30-17:30
4. 場 所：日本学術会議講堂
5. 分科会：分科会開催予定
6. 開催趣旨：

標記計画の企画、推進策の在り方とマスタープラン策定について、昨年選定された 40 課題のうち生命系研究課題 11 題と、それ以降、昨年 12 月に提案された新規提案課題からの数題を含め、その課題の意義と研究コミュニティにおける意見の集約状況などについて各提案者が発表する。それにより、コミュニティ間相互の討論を行って、科学・技術行政に反映できるような将来の生命科学系分野のマスタープランをまとめたい。

7. 次 第：

9:30-9:50 開催挨拶、学術の大型施設計画・大規模研究計画の考え方

浅島 誠（日本学術会議第二部会員、基礎生物学委員会委員、産業技術総合研究所フェロー兼幹細胞工学研究センター長）

9:50-10:20 学術行政の立場から
倉持隆雄（文部科学省研究振興局長）

10:20-10:30 質疑応答

【座長：黒岩常祥（日本学術会議第二部会員、立教大学大学院理学研究科・極限生命情報研究センター長・特任教授）】

10:30-10:45 1. 次世代ゲノム科学を基盤とした環境適応戦略研究拠点の形成
黒岩常祥（日本学術会議第二部会員、基礎生物学委員会委員長、立教大学大学院理学研究科・極限生命情報研究センター長、特任教授）

10:45-11:00 2. 生物多様性の統合生物学的観測・データ統合解析ネットワーク拠点
鷲谷いづみ（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

11:00-11:15 討論コメント

11:15-11:30 休憩

【座長：長野哲雄（日本学術会議連携会員、東京大学大学院薬学系研究科教授）】

11:30-11:45 3. 臨床研究推進による医学知の循環と情報・研究資源基盤の開発研究計画

11:45-12:00 4. ゲノム医療開発拠点の形成

12:00-12:15 5. 次世代高機能MR I の開発拠点の形成
永井良三（日本学術会議連携会員、東京大学大学院医学系研究科教授）

12:15-12:30 討論コメント

12:30-14:00 昼食

【座長：山本正幸（日本学術会議第二部会員、基礎生物学委員会委員、東京大学大学

院理学系研究科教授)】

14:00-14:15 6. 先進的医学研究のための遺伝子改変動物研究コンソーシアムの設立

岩倉洋一郎 (東京大学医科学研究所教授)

14:15-14:30 7. 糖鎖科学の統合的展開をめざす先端的・国際拠点の形成

古川鋼一 (名古屋大学大学院医学系研究科教授)

14:30-14:45 討論コメント

【座長：谷口直之 (日本学術会議第二部会員、基礎医学委員会委員長、大阪大学産業科学研究所教授)】

14:45-15:00 8. 創薬基盤拠点の形成

長野哲雄 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院薬学系研究科教授)

15:00-15:15 9. メタボローム研究拠点の形成

西島正弘 (日本学術会議連携会員、国立医薬品食品衛生研究所所長)

15:15-15:30 討論コメント

15:30-15:50 休憩

【座長：鷲谷いづみ (日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授)】

15:50-16:05 10. グリーンイノベーション人工降雨法実施のための施設設備

真木太一 (日本学術会議第二部会員、筑波大学北アフリカ研究センター客員教授)

16:05-16:20 11. 食品機能の活用とその科学的検証システムの研究拠点の形成

西澤直子 (日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科特任教授)

16:20-16:35 討論コメント

16:35-16:55 新規提案

16:55-17:15 総合討論

17:15-17:30 結語、挨拶

谷口直之（日本学術会議第二部会員、基礎医学委員会委員長、大阪大学
産業科学研究所教授）

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

1 2	
幹事会	1 1 9

提 案

公開シンポジウム「シミュレーションと社会—文理を結ぶ新しい方法論」の開催について

1. 提案者 社会学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議社会学委員会社会理論分科会
2. 日 時 平成23年6月4日（土）13時～17時
3. 場 所 日本学術会議講堂
4. 分科会の開催 開催予定

5. 開催趣旨

現代のアカデミズムが解決すべき課題として、「多様な要素が複雑に絡み合った問題系をいかに解決するか」という問いがある。たとえば、環境問題もグローバルゼーション問題もこうした相のもとで検討しなければ、いっこうに解決への光すら見えない。しかし、それを実現するには、既存のディシプリンに閉じこもることなく、多様な知を柔軟に組み合わせて考える必要がある。今日、多くの研究者がこのことに気づいているが、その展開を阻んでいるのが、個別分野間の「言葉」の違いである。この壁を乗り越えるツールとして、従来から、統計的方法、数理的方法が使われてきたが、近年は「シミュレーション」にも大きな期待がかけられている。

「シミュレーション」は、きわめて多くの分野で挑戦的な研究領域を開く新しい方法論である。「シミュレーション」の適用領域は多岐にわたり、しかも学際的、あるいは領域横断的である。本シンポジウムでは、この方向をさらに進めるため、多様な分野におけるシミュレーションの活用を報告していただき、シミュレーションを媒介とした分野間理解と、現代的諸問題の協働解決の可能性を探ろうとするものである。

6. 次 第

挨 拶：今田高俊（日本学術会議第一部会員・社会理論分科会委員・東京工業大学教授）

第1部「シミュレーションという知」

講演者：西垣 通（東京大学教授）

伊東敬祐（神戸大学名誉教授、はこだて未来大学初代学長）

(交渉中)

コメンテータ :

太田敏澄 (東京電気通信大学教授)

寺野隆雄 (筑波大学教授)

第2部「シミュレーションの成果」

講演者 : 池田謙一 (東京大学教授)

佐藤嘉倫 (日本学術会議連携会員・社会理論分科会委員・東北大学教授)

佐藤哲也 (静岡大学准教授)

コメンテータ :

(交渉中)

徳安 彰 (日本学術会議連携会員・社会理論分科会委員・法政大学教授)

中井 豊 (日本学術会議連携会員・社会理論分科会委員・芝浦工業大学
教授)

黒石 晋 (日本学術会議連携会員・社会理論分科会委員・滋賀大学教授)

第3部 全体討論

7. 関係部の承認の有無 第一部承認

1 3	
幹事会	1 1 9

提 案

公開シンポジウム「分類学は旧くて新しいー国立自然史博物館の設立に向けてー」の開催について

1. 提案者 基礎生物学委員会委員長、統合生物学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同動物科学分科会、北海道大学総合博物館
2. 後 援（予定）：日本動物学会、日本動物分類学会、日本進化学会、生物科学学会連合、日本分類学連合、日本自然史学会連合
3. 日 時：平成 23 年 6 月 18 日（土）13:30～16:30
4. 場 所：北海道大学総合博物館 「知の交流コーナー」
5. 分科会：分科会開催予定
6. 開催趣旨：

日本学術会議は「日本の展望ー学術からの提言 2010」を行った。この提言の中で、日本学術会議・動物科学分科会は、分類学を動物学発展のために必須な基礎として位置づけ、その振興をはかるための拠点として国立自然史博物館の設立を提唱した。未記載種を発見して命名記載し、生物種への深い理解を促す分類学はすべての生物学の基礎であり、それなしには生物学の発展はないばかりか、生物多様性の理解もおぼつかない。ところが現在、日本の大学では分類

学の専門家が激減しており、この分野の研究と教育が危機的状況にある。一方、欧米各国には国立の自然史博物館が存在し、それは、自然史に関する資料を収集し、保管、展示、普及、調査研究を行うことを通じて生物学（動物学）と社会（市民）を繋ぐシステムの中核を担うと共に、分類学者を育成する役割をも十分に果たしている。このことに鑑み、日本国立の自然史博物館の設立を促すことを最終目標に定め、分類学の現状を一般社会に理解していただこうと今回のシンポジウムを企画した。

7. 次 第：

開会挨拶：長濱嘉孝（日本学術会議連携会委員、動物科学分科会委員長、自然科学研究機構・基礎生物学研究所）

来賓挨拶：佐伯 浩（日本学術会議連携会員、北海道大学総長）

<講演者と講演タイトル>

中坊徹次（京都大学総合博物館）

「クニマス - 大正時代の標本が契機となった生存確認」

佐藤矩行（日本学術会議連携会員、沖縄科学技術研究基盤整備機構）

「ゲノムを携えた分類学への挑戦」

長谷川真理子（日本学術会議連携会員、総合研究大学院大学）

「ヒトの博物学的知能と分類学、人間性、環境」

斎藤成也（日本学術会議第二部会員、動物科学分科会委員、国立遺伝学研究所）

「日本列島人の自然史」

大原昌宏（北海道大学総合博物館）

「博物館標本の重要性」

馬渡駿介（日本学術会議連携会員、動物科学分科会幹事、北海道大学名誉教授）

「分類体系は変遷する」

閉会挨拶：浅島 誠（日本学術会議第二部会員、動物科学分科会委員、産業技術総合研究所幹細胞工学研究センター）

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

1 4	
幹事会	1 1 9

提 案

公開シンポジウム

「歯周病の予防が全身の健康を守る！～医科と歯科の立場から」の開催について

1. 提案者 歯学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催：日本学術会議歯学委員会病態系歯学分科会、日本口腔ケア学会
2. 後 援：日本医歯薬アカデミー（予定）
3. 日 時：平成 23 年 6 月 18 日（土）16:00-17:30
4. 場 所：東京大学山上会館（東京都文京区本郷 7-3-1）
5. 分科会：分科会開催予定
6. 開催趣旨：

歯周病は、歯垢（デンタルプラーク）中の細菌が原因で生じる歯ぐきの炎症で、しだいに歯を支えている組織、特に骨が破壊されることによって、最終的に歯の喪失に至る病気です。我が国においては、最近に行われた調査（平成 17 年度厚生労働省歯科疾患実態調査）の結果によると中年以降の日本人のおよそ 7～8 割が歯周病に罹患しており、歯を失う最大の理由になっています。歯周病は遺伝や糖尿病などの全身の病気によって進行が早くなり、重症化しやすいことはよく知られていました。しかし従来は、歯周病は口の中の局所的な細菌感染症であり、特殊な場合以外には全身の健康に影響を及ぼさないと考えられてきました。1990 年頃に重症の歯周病患者では狭心症や心筋梗塞などの心血管疾患のリスクが高まることが初めて報告され、歯周病が全身の健康に及ぼす影響が次第に明らかにされてきました。特に糖尿病患者においては、歯周病が重症かしやすいばかりでなく、血糖コントロールが改善しない原因の一つに歯周病の存在があると考えられるようになってきました。それ以外にも歯周病は妊婦における低体重児早産や誤嚥性肺炎などのリスクとなるばかりでなく、肥満との関係が明らかにされたこ

とにより、歯周病がメタボリックシンドローム全体と広く関わると現在では考えられています。本シンポジウムでは、歯周病と全身の双方向性の関係について、特に心血管疾患と糖尿病にターゲットを絞って、医科と歯科それぞれの立場から現時点でのエビデンスやメカニズムについてお話しする予定です。ご参加の皆様には、全身の健康を守る上での口の健康の重要性について理解を深めて頂ければと思っております。

7. シンポジウム次第

○主催者側挨拶 戸塚靖則（日本学術会議第二部会員、病態系歯学分科会委員長、北海道大学大学院歯学研究科教授）

モデレーター：野口俊英（日本学術会議連携会員、病態系歯学分科会委員、愛知学院大学歯学部歯周病学講座教授）

島内英俊（日本学術会議連携会員、病態系歯学分科会委員、東北大学大学院歯学研究科教授）

○講演内容

（１）「歯周病と心臓の病気との関係」

松原達昭（愛知学院大学歯学部内科学講座教授）

（２）「歯周病はなぜ全身の病気に関連するのか」

島内英俊（日本学術会議連携会員、病態系歯学分科会委員、東北大学大学院歯学研究科教授）

（３）「歯周病と糖尿病の関連性-内科医の立場から」

成瀬桂子（愛知学院大学歯学部内科学講座准教授）

（４）「歯周病と糖尿病の関連性-歯科医の立場から」

野口俊英（日本学術会議連携会員、病態系歯学分科会委員、愛知学院大学歯学部歯周病学講座教授）

○質疑と討論

○閉会の挨拶 高戸 毅（日本学術会議第二部会員、病態系歯学分科会副委員長、東京大学大学院医学系研究科教授、第8回日本口腔ケア学会総会・学術大会大会長）

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

1 5	
幹事会	1 1 9

提 案

日本学術会議中部地区会議学術講演会の開催について

- 1 提案者 科学者委員会委員長
- 2 議 案 標記講演会を下記のとおり開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議中部地区会議（共催：富山大学）
- 2 日 時 平成23年6月24日（金）13：00～16：00
- 3 会 場 富山大学五福キャンパス 黒田講堂会議室
（富山市五福3190）
- 4 次 第
 - （1）開会挨拶
遠藤 俊郎 富山大学長
 - （2）主催者挨拶
巽 和行 中部地区会議代表幹事、日本学術会議第三部会員
 - （3）科学者との懇談
丹生 潔 中部地区科学者懇談会幹事長
 - （4）講演会の演題及び演者
 - ・講演「 未 定 」
日本学術会議前会長 金澤 一郎
 - ・基調講演「 未 定 」
日本学術会議連携会員、富山大学医学薬学研究部准教授
松井 三枝
 - ・パネルディスカッション
「人間らしさと精神―脳の健康をめざして―」
（パネリスト）
富山大学医学部教授 西条 寿夫
富山大学保健管理センター教授 齋藤 清二
富山大学人間発達科学部教授 佐藤 徳

富山大学医学部附属病院講師 角田 雅彦

(5) 閉会挨拶

未 定

1 6	
幹事会	1 1 9

提 案

日本学術会議中国・四国地区会議 主催講演会の開催について

- 1 提案者 科学者委員会委員長
- 2 議 案 標記講演会を下記のとおり開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議中国・四国地区会議，愛媛大学
- 2 共 催 日本学術協力財団
- 3 後 援 愛媛県、松山市、NHK 松山放送局ほかを予定しています。
- 4 日 時 平成 23 年 7 月 23 日（土）14:00～17:00（予定）
- 5 会 場 南加記念ホール（愛媛大学構内・松山市文京町 3 番）
- 6 概 要 （テーマ）

愛媛大学先端研究 一拠点化の歩みー
(開催趣旨)

愛媛大学は研究戦略として、世界レベルの先端研究を行うため、各部局に散在している関連分野の研究者を集約して研究センターを作ってきた。国立大学法人前に 3 つのセンターを開設し、また、法人化後には更に 3 つの研究センターに加えて社会貢献を視野に入れた地域貢献型の研究センターを立ち上げてきた。

これのうち、2 つのセンターではグローバル COE プログラムに採択され、また他の何れのセンターも各々の分野で成果を挙げて高い評価を得ており、大学の戦略は成功したように思われる。今回は、大学の研究戦略を概説するとともに、各研究センターの活動の概要を紹介したい。

(プログラム)

14:00～14:10 挨 拶

愛媛大学長 柳澤康信

14:10～14:40 講 演

日本学術会議会長または副会長（30 分）

14:40～

全体説明 愛媛大学理事（財務・学術担当） 大橋裕一

14:50～

沿岸環境科学研究センター* センター長 武岡英隆

15:05～

地球深部ダイナミクス研究センター*	センター長	入船徹男
15:20～		
無細胞生命科学工学研究センター	センター長	遠藤弥重太
15:35～		
宇宙進化研究センター	センター長	谷口義明
15:50～		
東アジア古代鉄文化研究センター	センター長	村上恭通
16:05～		
プロテオ医学研究センター	センター長	
16:20～		
防災情報研究センター	センター長	鳥居謙一
16:35～		
南予水産研究センター	センター長	山内皓平
*GCOE 拠点		
16:50～		
閉会挨拶	日本学術会議第二部会員	山内皓平

17	
幹事会	119

提 案

第30回混相流シンポジウムの開催について

1. 提案者 機械工学委員会委員長
土木工学・建築学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催： 日本学術会議 土木工学・建築学委員会、機械工学委員会
2. 共 催： 混相流学会
3. 協 賛： (予定)
化学工学会、可視化情報学会、火力原子力発電技術協会、空気調和・衛生工学会、計測自動制御学会、資源・素材学会、スラリー輸送研究会、石油学会、ターボ機械協会、土木学会、農業農村工学会、日本ウォータージェット学会、日本埋立浚渫協会、日本エアロゾル学会、日本機械学会、日本空気清浄協会、日本原子力学会、日本航空宇宙学会、日本材料学会、日本浚渫・空気圧送協会、日本船舶海洋工学会、日本鉄鋼協会、日本伝熱学会、日本冷凍空調学会、日本バイオレオロジー学会、日本マリンエンジニアリング学会、日本ボイラー協会、日本フルードパワーシステム学会、日本流体力学会、粉体工学会、日本雪氷学会、日本雪工学会、日本液体微粒化学会、日本洗浄技能開発協会
4. 日 時： 平成23年8月7日（日）9:00～12:00
5. 場 所： 京都工芸繊維大学松ヶ崎キャンパス
(京都府京都市左京区松ヶ崎橋上町)
6. 分科会の開催： 無
7. 開催趣旨：

第30回混相流シンポジウムでは、「エネルギー・環境・バイオ」をテーマに、斯界の第一人者に講演をしていただく予定です。混相流の学理や計測技術に密接に関連した最先端の研究を中心にして、基礎と応用分野の中から講師をお招きし、今後の混相流分野の新しい展開への糸口を考える機会にしたいと考えています。

なお、本シンポジウムの講演は、科学・技術に興味をもつ一般市民の方々にも興味深い内容であり、混相流を中心とした分野の最前線を多くの人々に知っていただける良い機会でもあります。

8. 次 第：

開会の挨拶 三島 嘉一郎 氏 日本混相流学会会長 INSS 技術研究所長
主催者講演 池田 駿介 日本学術会議第三部幹事 土木工学・建築学委員会委員 建設技術研究所 池田研究室長
主催者総括 菱田 公一 連携会員 機械工学委員会委員 慶応義塾大学教授

招待講演 (順不同)

1. 講師：高田 保之 氏 九州大学大学院工学研究院機械工学部門教授
題目：「高圧水素の熱物性測定」
2. 講師：三上 正男 氏
国土交通省気象庁 気象研究所 環境・応用気象研究部長
題目：「砂塵嵐の観測・物理・モデリング」
3. 講師：植田 充美 氏
京都大学大学院農学研究科応用生命科学専攻教授
題目：「バイオマスからバイオ液体燃料への新変換技術 - アーミング技術の環境への展開」

閉会の挨拶 功刀 資彰 氏
第30回混相流シンポジウム実行委員長 京都大学教授

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

10. 申し込み方法・連絡先

参 加—入場無料

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

京都大学工学研究科原子核工学専攻

日本混相流学会年会講演会 2011・第30回混相流シンポジウム実行委員会
事務局 河原 全作

Tel: 075-753-5842、Fax: 075-753-5842、E-mail: nenkai2011@jsmf.gr.jp

1 8	
幹事会	1 1 9

提 案

シンポジウム「東アジアにおける現代の地表プロセスと長周期環境変動
(Present Earth Surface Processes and Long-term Environmental Changes
in East Asia)」の開催について

1. 提案者 地球惑星科学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：地球惑星科学委員会 IGU 分科会
Chengdu University of Technology (CDUT), Chengdu, China
Institute of Mountain Hazards and Environment (IMHE), CAS,
Chengdu, China
Nanjing Institute of Geography and Limnology, CAS (NIGLAS),
China
Kanazawa University, Japan
National Taiwan University, Taiwan
Korea Institute of Geoscience and Mineral Resources (KIGAM),
Korea
Institute of Geology and Mineral Resources of the Mongolian
Academy of Science, Mongolia
2. 後 援：International Association of Geomorphologists (IAG)
Japanese Geomorphological Union, Japan
3. 日 時：平成 23 年 10 月 10 日（月）～14 日（金）
4. 場 所：中国・成都市
5. 開催趣旨：
本ワークショップの主な目的は、偏西風や東アジアモンスーンの影響を強く
受け、気候変動に敏感な東アジア地域において湖沼一流域系等の各種流域系を

対象に、現代における地表プロセスの解明と長周期環境変動に関する情報を交換することである。陸域環境情報には海洋堆積物情報などの他のデータと比べていくつかの利点があるが、それは、自然変動の記録だけでなく、人為的な活動に関する記録を含む高解像度の記録が得られるとともに観測時代の記録に接続可能となることである。適切なアプローチと方法を用いることにより、代替記録や観測記録からの環境情報が、人間活動による影響が敏感な地域における詳細な環境プロセスや変化の手がかりを与えることになるだろう。

6. 次 第：

10月11日 開会式において主催者として柏谷健二(日本学術会議特任連携会員、IGU 分科会委員)が挨拶し、10月11-12日のセッションで野上道男(日本学術会議連携会員、IGU 分科会委員)・沖村孝(連携会員)が講演する予定

7. 分科会の開催：無し

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

1 9	
幹事会	1 1 8

提 案

国際会議の後援について

1 提 案 者 会 長

2 議 案 国際会議を後援すること。

3 提案理由 下記の国際会議について後援の申請があり、「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」第38条に基づき、国際委員会(主催等検討分科会)において審議を行ったところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。
なお、国際会議の概要は、別紙のとおりである。

記

第1回 ICSU 世界データシステム会議—世界のデータが切り開くグローバルな科学 (ICSU-WDS)

後援を希望する国際会議の概要

会 議 の 名 称	和文：第1回ICSU世界データシステム会議-世界のデータが切り開くグローバルな科学 英文：The 1 st ICSU World Data System Conference - Global Data for Global Science（略称：ICSU-WDS）								
開 催 時 期	平成23年9月3日～9月6日（4日間）								
開 催 場 所	京都府京都市（京都大学百周年時計台記念館）								
主 催 団 体	第1回 ICSU 世界データシステム会議国内組織委員会								
共 催 団 体	日本学術会議地球惑星科学委員会・国際対応分科会・WDC 小委員会								
後 援 団 体	日本学術会議（希望）、地球電磁気・地球惑星圏学会（独）情報通信研究機構								
母 体 団 体 等	和文：ICSU 世界データシステム科学委員会 英文：ICSU World Data System Scientific Committee（略称：ICSU WDS-SC）								
参加予定者数 [参加予定国]	国外 60 人 国内 80 人 計 140 人 [21 カ国・地域]								
会 議 内 容	基調講演、口演研究発表、ポスター発表、自由討論等								
会 議 議 事 録 等	投稿論文を Data Science Journal (DSJ)に出版予定								
開催経費の財源	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">参 加 費</td><td style="text-align: right;">1,240 千円</td></tr> <tr> <td>助 成 金</td><td style="text-align: right;">4,960 千円</td></tr> <tr> <td>その他</td><td style="text-align: right;">1,440 千円</td></tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">7,640 千円</td></tr> </table>	参 加 費	1,240 千円	助 成 金	4,960 千円	その他	1,440 千円	計	7,640 千円
参 加 費	1,240 千円								
助 成 金	4,960 千円								
その他	1,440 千円								
計	7,640 千円								
[募 金 団 体]	（窓口となる団体名）無し								
申 請 者	第1回ICSU世界データシステム会議国内組織委員会委員長 京都大学大学院理学研究科付属地磁気世界資料解析センター教授 家森俊彦								
連 絡 責 任 者	同上								